

N1MM と micro2R で SO2R

de jh4utp

日々システム構築に余念のないコンテスターのみなさま、こんにちは。

SO2Rに挑戦し始めてからというもの、構成や設定は複雑になっていばかりです。試行錯誤がお楽しみなのでそれはそれでよいわけですが、費やした労力が実を結ぶのはいつの日になることやら。その道程の一部をご紹介します。

1. N1MM *1

2009 ACAG から使い始め、現在では全てのコンテストで N1MM を使っています。

- ・充実した SO2R 機能

- ・CW skimmer を活かせるバンドマップに惹かれ zlog から乗り換えました。フリーソフトであることも魅力です。月に数回バージョンアップされており、頻繁に改良が加えられています。ML も充実しています(10-20post/日は充実し過ぎ?)。

一方国内コンテストには十分に対応しておらず、

- ・JCC/JCG や

- ・バンド別のパワーコード

に対応していません。このため事後に zlog に変換して編集しています。この手間をかけてでも、N1MM を使いたい今日この頃です。

400p 超の英文マニュアルに記載された機能は膨大で、私の参加ペースでは2年近く経ってやっと使いこなせるようになってきました。最近、日本語版マニュアルも一部完成して身近になってきました。

CTU のログソフト比較*2によれば世界シェアは No.1 ですが、高得点者に愛用されているのは Win-Test*3 のようです。こちらも気になりますが、使いこなせるようになるまでまた数年を要すると思うと、乗り換える元気はちょっと出てきません。

2. Micro2R

N1MM の CW、RTTY は R1/R2 別々にキーイングできるので、キーボードと手動のヘッドフォン切替 Box で十分でした。ところが SSB になると、

- ・アイコムは Heil のマイクだとレベル不足

- ・ログの TX focus の移動にあわせてマイクを自動切替できない

- ・DVK と MIC を自動切替できない

などの問題が噴出して、'09-'10 あたりは SSB に出る気にもなりません。これではいかん、やはり SSB でも SO2R をやらねばっ！ とあれこれ検討しているうちに、市販の SO2R box を一度試してみたくなり、micro2R*4 を購入しました。

簡易版だから MK2R より簡単だろうと思っていましたが、制御ソフトの microHAM USB Device Router は設定箇所がかなりあり、なかなか思い通りに動きません。何度も手動 SO2R box に戻ろうかと思いましたが、ログの focus に連動して I/O を切替える魅力は捨てがたく、諦め悪く半年じたばたしてなんとか実用になってきました。



(左)使い慣れた手動 SO2R box とマイクアンプ (右) micro2R

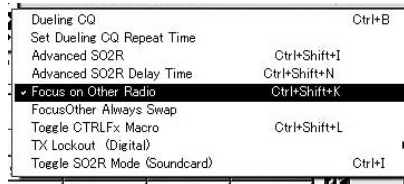
3. COMポートの設定

PTT,CW,FSK は、ミニタワーの増設 COM ポート経由で、直接 N1MM から R1/R2 別々に制御できます。micro2R 経由でも同じことができるので、どちらに機能を受け持たせるかを決めて設定しなければなりません。マニュアルにお勧め例が載っているのですがイマイチでした。PCのハードウェア構成を変更せず、どのモードでも共用でき、micro2R 不調時も COM から KEY 制御できるようにと考えて、この割当に落ち着いています。

COM	CW	SSB	RTTY
1 On board	PKT	PKT	PKT
2 On board (NC)	--	-	-
3 RSA-PCI II	R1	R1	R1
4 RSA-PCI II	R2	R2	R2
5 RSA-PCI II	(KEY1)		FSK1
6 RSA-PCI II	(KEY2)		FSK2
7 Virtual port	Winkey	(Winkey)	(Winkey)
8 Virtual port	MK2R	MK2R	MK2R

4. SO2R設定

基本形の R1 で CQ、R2 で S&P の設定例です。



N1MM の Config > SO2R の設定

HEADPHONES

	R1 BOTH R2
RX focus on R1	<input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/>
RX focus on R2	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
Computer TX on R1 (Latch)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
Computer TX on R2 (Latch)	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
Manual TX on R1	<input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/>
Manual TX on R2	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
STEREO	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>

microHAM USB Device Router の設定

重要なのは CQ の後は、両耳で R1 を聞くことです(R1+R1)。QRM が多いなか微弱な信号に呼ばれたときは、R2 を聞きながら(R1+R2)では私は聞き逃してしまうのです。

逆に、R2 でコールが聞こえたときは、コールの一部を入力すれば RX focus が R2 固定になり、左で R1、右で R2 を聞くことができます(R1+R2)。

Radio #1		Radio #2	
TX	RX	TX	RX
CQ TEST			(ワッチ中)
CQ TEST			.CQ JH4. . (JH4を入力)
			.. WBY. . (WBYを入力)
CQ TE. .			TEST
		JH4UTP (TX focus を R2 にして送信)	
			JH4UTP 5NN45
		5NN45	
CQ TEST (F1)			TU JH4. .

USB Device Router の TX logic を “Last one wins” に設定し、micro2R の LATCH を ON にしておくことも忘れなく。

ここで RX focus 切替キー ¥ を使えば、R1+R1 と R1+R2 を交互に切替できるので、ヘッドフォン

切替 SW の操作を減らすことができます。

実戦では状況に応じて、S&P+S&P となったり、CQ のあと短時間 R1 を聞いて R2 に戻ったり (Advanced SO2R)、R1,R2 交互に CQ をだしたり (Dueling CQ)と、様々な運用パターンを楽しめます。ヘッドフォン設定の変更と手動操作はいずれにせよ必要ですが、疲れてくると何をやっているのかわからなくなるので、なるべく設定変更と手動操作をせずにすむ設定を模索中です。

5. DVKの設定

恥ずかしながらこれまで IC-756 のボイスメモリだけでやってきました。しかし SSB で SO2R するのなら、DVK があるほうがよいのは言うまでもありません。micro2R の DVK 機能が万事解決する目論見でしたが、蚊の鳴くような声しか録音再生ができません。しかも CQ Repeat もできません。いずれも N1MM マニュアルに「できない」と明記されているのを、購入後に発見しました！

わかってしまえば N1MM のメッセージ録音再生機能で十分なものでした。しかしオンボードサウンドカードが Realtek で相性が悪く、やっぱり録音できません。試行錯誤の末、検索で見つけた手順、「ウインドウズのサウンドをオフ」にし「Recording device を default に」を試したら、録音できました。元の設定に戻しても動いています。全く謎です。

6. 疲れ果ててSO1R?

ということでこの組合せ、使いこなせるようになるまでがかなり大変です。毎回の設営も3時間くらいかかります。そして、たいてい思い通りに動かせず、頭を抱えることになります。

「労力をかけた割にスコアは増えないので、全部叩き売ってSO1Rにもどった。楽しくやっている。」という記事*5を最近読みました。なんだか妙に共感。

でも僕は、もうしばらくはSO2Rをやってみようと思います。

<http://homepage3.nifty.com/jh4utp/>

*1 <http://www.n1mm.com/>

*2 http://pvrc.org/n4zr/dayton_2011_presentations.htm

Review of Contest Logging Programs Pete Smith N4ZR

*3 <http://www.win-test.com/>

*4 <http://www.microham.com/>

*5 Why I Went Back to SO1R N4ZR NCJ Jul/Aug 2011